

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	親鸞像の形成と展開過程
Title(English)	Formation and development process of the image of Shinran
著者(和文)	大澤 絢子
Author(English)	Ayako Osawa
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第10385号, 授与年月日:2016年12月31日, 学位の種別:課程博士, 審査員:戦 暁梅,伊藤 亜紗,桑子 敏雄,劉 岸偉,弓山 達也,橋爪 大三郎,本多 弘之
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第10385号, Conferred date:2016/12/31, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	論文要旨
Type(English)	Summary

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻： Department of	価値システム	専攻	申請学位（専攻分野）： Academic Degree Requested	博士 Doctor of	（ 学術 ）
学生氏名： Student's Name	大澤絢子		指導教員（主）： Academic Advisor(main)	戦暁梅准教授	
			指導教員（副）： Academic Advisor(sub)	伊藤亜紗准教授	

要旨（和文 2000 字程度）
Thesis Summary (approx.2000 Japanese Characters)

本論文は、絵巻や伝記、そして文学作品などの親鸞（1173～1263）に関するテキストを精密に分析することにより、親鸞のイメージ、すなわち「親鸞像」の形成とその展開過程を明らかにすることを目的としている。

本論文では、親鸞の生涯を描いた絵巻物「親鸞伝絵」（以下「伝絵」）の親鸞像の変容へと焦点を当て、語る者の意図、宗派意識、近代における『歎異抄』の受容、マス・メディアへの登場という、主に4つの要素に注目し、以下の五章構成で考察した。

第1章「親鸞像の創出——覚如による「三代伝持」の表明と康永本「親鸞伝絵」——」では、親鸞のひ孫覚如の在世中に制作された現存する「伝絵」五本のうち、「康永本」と呼ばれる康永二（1343）年の『本願寺聖人伝絵』における親鸞像の形成の意義を検討した。その結果、親鸞を顕彰することを目的として制作された「伝絵」のうち、特に「康永本」は、留守職に就任した覚如が教義の明確化および本願寺を中心とした信仰の形成に力を注いでいくなかで制作されたものであることが明らかになり、また、これによって、覚如が表明した「三代伝持」は、親鸞から覚如自身へ連なる法脈の宣言でありつつ、法灯継承者としての覚如と本願寺の正統性を主張するための論理構成であったことを指摘した。

第2章「康永本「親鸞伝絵」における親鸞像の形成——琳阿本・高田本との絵相比較より——」では、具体的に「康永本」に描かれた絵相を「琳阿本」（『善信聖人絵』）および「高田本」（『善信聖人親鸞伝絵』）と比較することによって、「康永本」に反映された覚如の意図および親鸞像の変化を明らかにした。「康永本」には、法然と親鸞の教義的立場の同一性を強調し、真宗の教義的立場を明確にする描写、僧俗における親鸞の人気と存在感を強調する描写、および本願寺と親鸞との関係を強固なものとする描写が見られ、法然の法脈を継ぐ正統な弟子・親鸞、僧俗に教えを弘め、僧俗に慕われた親鸞、および本願寺の親鸞という性格づけがなされていた。「康永本」は、宗祖である親鸞を顕彰する性質を保ちつつも、著作において表明されていた覚如の主張を巧みに組み込んだ上で親鸞像が展開されていることを明らかにした。

第3章「妻帯した」親鸞像の構築——江戸期における僧侶の妻帯の厳罰化と親鸞伝の言説をめぐって——」では、江戸幕府による寺院統制による宗派意識の中で「妻帯した親鸞」像が構築されていく過程を明らかにした。本章では、江戸期における画一的寺院統制下において僧侶の女犯や妻帯が厳罰化していくなかで例外的に妻帯が認められていた真宗が、宗祖である親鸞が「妻帯した」という言説をいかに確立していったのかを検討した。江戸期以前に親鸞の妻帯を記した親鸞伝は少ないのにも関わらず、江戸期の親鸞伝はそれ以前の親鸞伝を引く形でおよそその親鸞伝にも親鸞の「妻帯」が語られる。さらに江戸期に親鸞伝においては親鸞の「妻帯」の正当性が強

調され、次第に宗風の起源として主張されることを明らかにした。

第4章「浩々洞同人による『歎異抄』読解と親鸞像——倉田百三『出家とその弟子』への継承と相違——」では、親鸞の弟子・唯円による書とされる『歎異抄』を素材とした文学作品、倉田百三の『出家とその弟子』と近代における『歎異抄』読解との連続性と相違を論じた。暁鳥敏をはじめとする浩々洞同人による『歎異抄』の読みとは、自己の罪惡の自覺を契機とした「絶対他力」の姿勢であり、それが彼らの親鸞像にも色濃く現れている。そのように自己の愚かさや罪惡を吐露する親鸞は、「如来の化身」として親鸞を語ってきた「伝絵」とは差異があり、『出家とその弟子』における親鸞像とも重なる点も多い。だがこの親鸞は、あくまでも自己の善を高めようと志向するにおいて、彼らのものとは大きく相違することを明らかにし、近代における読書形態の変化も相俟って、語る者による私的な親鸞像が展開されていくことを明らかにした。

第5章「親鸞像の大衆化——新聞小説のなかの親鸞像——」では、『出家とその弟子』に次いでいち早く新聞小説として親鸞を描いた石丸梧平の作品を分析した。石丸は独自の人生観によって親鸞を取り上げた作家であるが、彼の作品は新聞がマス・メディアとして大規模化していくさなかに日刊紙への連載という形で発表されている。倉田が性や生の問題を、宗教的なものへ昇華させることを目指す親鸞像を展開したのに対し、石丸の描いた親鸞はひたすら現実の問題に悩み、いかに生きるかを課題とする親鸞である。ここには、個としての成長を重視する大正期の思潮との関連が見受けられ、親鸞が時代思潮を取り込みながら不特定多数の読者に提供されていくことによって「人間親鸞」の新たな側面を見出すことができることを指摘した。

以上、要するにゆるぎない信仰の対象であるはずの宗祖親鸞のイメージは、「伝絵」において創出されて以降、語るものの意図によって変容し、また社会要因によって、さまざまに形を変えて、文学やマス・メディアを通じて教団外の日本社会へと浸透していった。本研究は、他の宗教者や僧のイメージの研究にも連動する可能性を含んでおり、従来の宗教史研究にとどまることなく、文化史や日本研究においても大きく寄与するものと考ええる。

備考：論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意：論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).

論文要旨

THESIS SUMMARY

専攻 : Department of	価値システム	専攻	申請学位 (専攻分野) : Academic Degree Requested	博士 (学術) Doctor of
学生氏名 : Student's Name	大澤絢子		指導教員 (主) : Academic Advisor(main)	戦暁梅准教授
			指導教員 (副) : Academic Advisor(sub)	伊藤亜紗准教授

要旨 (英文 300 語程度)

Thesis Summary (approx.300 English Words)

This paper aims to clarify the formation and development process of Shinran's image, by precisely analyzing the text on Shinran (1173-1263) such as picture scrolls, biographies, and literary works.

Kakunyo who aimed to the faith formation with a focus on Honganji claiming the doctrine (the light of Buddhism) from Hōnen, and Shin sect that challenge to claim the sect tradition for the marriage among the uniform Buddhist control of the Edo period aimed how out to talk about Shinran as a sect founder: “Shinran dennne (Dnnne)”that is created by Kakunyo expressed the image of Shinran as legitimate disciple of Honen, spread the teaching to monks and laymen, and the endeared to monks and laymen, furthermore, Shinran’s marriage also added to his image in his biography of early modern period regardless of its not talked in ”Dennne”.

In modern period, Haya Akegarasu and the members of the Kōkōdō were regarded Shinran as a man who believed “absolutely Other-Power” and thoroughly reflection own ignorance or self-guilt through the *Tannishō*. They told personal image of Shinran different with “Denne” that had honored him as an “Incarnation of the Buddha (Nyorai)”. And, in Hyakuzo Kurata considered to be influenced by their *Tannishō* reading, Shinran is drawn not a man who relies on “absolutely Other-Power” but aims toward goodness, and seeks after the realization of the ideal of birth in the Pure Land as a fulfillment of the nenbustu (a “prayer” of good act).

Furthermore, image of Shinran represented as image creators would like to present for the reader in mass media. In newspaper novels, images of Shinran are presented added free creation to "Dene" and biography by writers, are receptive to an unspecified number of readers with unique cofactors.

These points are will be linked to the problem how formed images of Japanese religious people or monks in sectarian and religious space in Japan and how the images generated.

Deployment process with the formation of images of Shinran is believed to work with widely the images of other sect founder or monks, this study is considered to be useful in the deal exhaustively with of such religious images.

備考 : 論文要旨は、和文 2000 字と英文 300 語を 1 部ずつ提出するか、もしくは英文 800 語を 1 部提出してください。

Note : Thesis Summary should be submitted in either a copy of 2000 Japanese Characters and 300 Words (English) or 1copy of 800 Words (English).

注意 : 論文要旨は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。

Attention: Thesis Summary will be published on Tokyo Tech Research Repository Website (T2R2).